

女性からのひとこと

応用地質(株)
八島 直子



みなさん美味しい空気を、お腹いっぱい
に吸ってみませんか？

夕日の美しさ、野に咲く小さなお花、水
の冷たさ、風の匂い、季節のうつりかわり…
アウトドアを通して非日常を味わい、心と
体をリセットすることが、私の休日の楽し
みとなっています。

2年ほど前から山登りをするようにな
り、丈夫な体と向上心を持てるようにな
りました。

私の初登山は、高校へ入学して間もな
い頃の伝統行事となっていた登山合宿でし
た。登山経験が無かったこともありますが、
登山に適さない靴で登ったため、ザレ場斜
面で滑ってしまい両手両膝を擦りむいたと
いう辛い経験をしました。それ以降、もう
山に登ることはないだろうと思っていたの
ですが、1枚の鳥の写真がきっかけで再び
山登りをすることになりました。

その頃、北海道の大雪山の紅葉を見に
行こうと情報を集めていた際に、『ホシガ
ラス』という可愛い水玉模様のカラ
スの写真に目が釘付けになりました。調
べてみると観測地点へは登山の装備が必
要でしたので、前回のことを教訓にして
登山靴と雨具を揃え再チャレンジするこ
とにしました。

大雪山は日本最大の国立公園となってい
ます。旭岳のロープウェイでいっきに高山
帯までいけるため観測地点へは思いのほか
楽に辿り着くことができました。その日は
強風で雨も降ってきてしまい残念ながらホ
シガラスを見つけることはできませんでし
たが、最寄で観測できる場所はないか探
してみると宮城蔵王にも生息していること
がわかったので、休日に友人を誘い行って

みることにしました。

蔵王エコラインの大黒天駐車スペース
周辺は、一面ハイマツ帯になっており、ホ
シガラスがその松の実を食べて生息してい
るとのことです。あたりを見回しじっとし
ていると、グアグアグアグアという鳴き声
が聴こえてきました。目を凝らしてみても
と松の木の先端に留まった小さくて可愛
らしいホシガラスを発見し、友人と歓声を
上げて喜んだのを覚えています。

それから登山教室へ通いながら、いくつ
か山を登っていくうちに野生動物や高山植
物、四季折々の山の変化に魅了されていき
ました。

山登りを快適で安全なものにするため
にも登山者は基本的な知識と装備、そして
ストックにゴムキャップを付けること、下山
後は登山靴の土を落とし次の山に持込ま
ない等、山の荒廃を抑えた歩き方を心得て
おきたいところです。



ホシガラス

山で出会った方との会話も登山の楽し
みのひとつです。日本百名山といわれる山
には、全国からたくさんの登山愛好家が集
まります。山小屋や避難小屋で休憩をして
いると、各々の経験談で盛り上がります。
長年山登りをされている方のお話はどれ
も興味深く、次の登山計画の参考になり
ますし、

年齢も職業も関係なく、ひとつの山で熱く語りあえるというのも登山の魅力だと思います。

長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が、平成26年9月27日に噴火しました。御嶽山の噴火した日は紅葉が最盛期の週末だった為、多くの登山者が犠牲となり甚大な被害をもたらしました。

日本の活火山は110あり、そのうち百名山に指定されている山は30程あります。私は御嶽山噴火の1週間前に同じく活火山の一部がある富山県の立山連邦を縦走していたこともあり噴火を知ったときは言葉を失いました。一日中テレビのニュース速報から目が離せなかったのを覚えています。日増しに厳しい状況が伝えられ、命からがら下山された方々の凄まじい体験談を耳にし、私のところへは家族や友人から心配するメールが届いたりもしました。一方で各地から届けられる紅葉情報を心待ちにしている自分もいて、改めて山が好きなんだと感じるとともに、今後は天候だけでなく危険箇所や火山活動についても細かくチェックし入山届についても必ず出すようにしなければならぬと感じました。

以前、入山届と下山届を提出するポストの場所が中々みつからないといったこともあったので、こちらも事前に調べておけば気持ちにも余裕ができると思います。いつも登るたびに、「あー、こうしておけばよかった」と、色んなことに気づかされます。経験していないとなかなか気づけないことって多いものですね。

いつもと同じようにすれ違う方と挨拶を交わし、「稜線のガスはどうですか?」、「あと少しで山頂ですよ」と、二言三言の会話ですが、お互いの状況を確認し合ったり、そんなちょっとした思いやりがとても心強く、活力さえ湧いてきます。

大自然に生かされていることへの感謝と畏敬の念を忘れることなく、これからもたくさんの方と山の素晴らしさを共有したいと願います。

去年は、土砂災害が山間部だけでなく、

都市部でも大規模に発生し、多くの方が犠牲になりました。また、台風や竜巻も毎年大きな被害をもたらしています。そして、火山の監視体制もまだまだ課題が多いと聞きます。

災害大国である日本では、防災訓練の重要性をひとりひとりが認識して行っていかなければならないと災害が発生するたびに痛感させられます。

私の所属する応用地質株式会社では、様々な自然災害や防災・環境アセスメント等に携わっています。私は事務職なので実際に現場に行くことはありませんが、仕事を通して社会貢献できていたら嬉しく思います。

この記事の寄稿のお話を頂き、自身の山行を見つめ直すきっかけとなりました。ゼロになり得ない山でのリスクを、可能な限りゼロに近づけることで楽しい山行にしていきたいです。

次なる私の目標はテントと食糧を担いで山に登ることです。山で作る『山ごはん』や丁寧に淹れた珈琲は格段に美味しく、食いしん坊の私はいつも何を作ろうかとワクワクしています。登るだけでも相当なエネルギーを消費するので、この時ばかりはカロリーを気にせず好きなものを食べられるという、ダイエット中女子には、幸せな時間であります。

この小さな体でも体力と工夫次第で実現できると信じています。山は逃げませんから、ゆっくりゆっくり少しずつ、自分の体力に見合った山登りの楽しみ方を見つけていこうと思います。



安達太良山の「山ガール」